

IEC1906賞を受賞

このたび、電気・電子技術の標準化活動に大きく貢献した個人を表彰する、国際電気標準会議（IEC）のIEC1906賞に、当工業会で取り組んでいる「温水洗浄便座の性能評価方法に関する国際標準化」の推進リーダーである高田英樹氏（TOTO株式会社 技術主査）が受賞しました。

●IEC（国際電気標準会議）1906賞とは

IEC1906賞は、2006年に1906年の創立から100周年を迎えることを記念して、IECの技術活動に関連し、電気・電子技術の標準化及びその関連活動に多大な貢献があった個別技術専門委員会の専門家の業績を称えるものです。

今年は全世界で220名が表彰され、日本からの受賞者36名のうちの1人として、高田氏が選ばれました。

◇IEC1906賞

<https://www.iec.ch/awards>

◇経済産業省の令和3年度産業標準化事業表彰の受賞者発表ページ

<https://www.meti.go.jp/press/2021/10/20211019001/20211019001.html>



●温水洗浄便座の性能評価方法に関する国際標準化（IEC/TC 59/SC 59L/PT 62947）

温水洗浄便座が有すべき品質とその性能評価方法を明らかにし、使用者が製品を選択する際に必要な情報が適切に得られるようにするため、性能評価及び試験方法の国際規格化を図るものです。2014年度に日本から新規提案し、IEC/TC 59/SC 59Lの下に新たに設置されたプロジェクトチーム PT 62947において、日本がリーダーとなり参加各国と多くの議論を重ね規格開発を進めています。高田氏は2014年度以来、当工業会の温水洗浄便座国際規格WGの主査としてこの活動の中心的な役割を担い、国際規格化に向けた幾多の課題を乗り越え、粘り強く努力を重ねプロジェクトを推進してきたことが評価されたものです。

●受賞者 高田英樹氏 コメント

この度はこのような賞をいただき大変光栄です。また受賞にあたっては日頃からご理解・ご支援いただいております関係者皆様へあらためて感謝申し上げます。

安全な水とトイレを世界中に広めることで持続可能な世界を実現するために、国際標準化活動は日本発の商品である温水洗浄便座を世界に向けて普及させていくための重要な活動の一つです。これからも「チーム日本」として温水洗浄便座の産業発展に貢献できるよういっそう努力して参ります。

